

彙 報

第 33 回大會

11 月 13 日上智大學講堂で會員の研究發表を行った。(pp. 51-69 参照)

東京例會

26 回, 10 月 8 日, 慶應大學, 「鳥類の音聲活動—記號論的考察—」 鈴木孝夫氏

27 回, 12 月 3 日, 法政大學, 「失語症」 井村恒郎氏

28 回, 2 月 4 日, 東京外國語大學, 「意味論の新展開」 鶴見俊輔氏

委員會

9 月 27 日, 於東京大學

1. 第 33 回大會の細目決定。
2. 九學會連合第 10 回大會 (昭和 31 年 5 月 13, 14 日の豫定) の共同課題「成長」についての當學會發表者は杉井鈴子氏に依頼する。
3. 九學會連合の昭和 31 年度奄美大島共同調査に本會より服部四郎, 上村幸雄, 徳川宗賢の 3 氏が参加する。

11 月 13 日, 於上智大學 (臨時委員會)

昭和 31 年度文部省科學研究費等分科審議會委員として本會より徳永康元氏を推薦する。(同氏に決定)。

2 月 4 日, 於東京外國語大學

1. 第 34 回大會は講演會とし, 5 月 19 日 (あるいは 26 日) 仙臺市において開催する。(會場は宮城學院女子大學に内定)。
2. 「言語研究」の發行部数を昭和 31 年度より 550 部とする。
3. 「言語研究」の編集規約:
 - (1) 本會は委員のうちに刊行委員 (若干名) を設ける。刊行委員は編集委員と出版委員とより成る。編集委員は「言語研究」の編集を合議によつて行い, 出版委員は編集されたものを出版に移す事務を處理する。
 - (2) 「言語研究」は言語學上の論文・書評, 講演または研究發表の要旨, 本會及び學界一般の動向に關する諸種の記事をのせる。
 - (3) 「言語研究」の刊行は原則として年 2 回とする。
 - (4) 「言語研究」に執筆しうるものは會員に限る。
 - (5) 投稿に關する規定は別に設ける。

* * *

◇11 月 26 日, 副會長金田一京助氏, 評議員熊澤龍, 高津春繁兩氏, 委員池上二良氏が文部省に稻田大學學術局長を訪れ, 文部大臣宛「教育職員免許法改正についての建白書」を手交した。

受贈圖書目錄

石川考古學研究會：石川縣羽咋郡舊福野瀉周邊綜合調查報告書	石川考古學研究會
榎垣 實：船場言葉	著者
國立國語研究所編：國語年鑑・昭和 30 年版	編者
都竹通年雄：奈良縣北部方言覺書（近畿方言双書第 3 册）	近畿方言學會
土居光知：日本音聲の實驗的研究	著者
日本國語教育學會編：國語教育の諸問題—反省と提案—	編者
原田英雄：廣島方言概要	著者
水谷靜夫：待遇表現の基礎	著者
横山辰次：國語の慣用語（國語シリーズ 22）	著者
吉町義雄：露都刊行日本語文典（石濱先生還曆記念論文 16）	著者

アメリカーナ	第 1 卷 1~3 號, 第 2 卷 1, 2 號	米大使館文化交換局出版課
アフリヤ學會々報	第 28 號	大阪外大内アフリヤ學會
International Anthropological and Linguistic Review	Vol. II, 1-2	IAL-Circle
上野圖書館紀要	第 2 册	上野圖書館
NHK 國語講座	第 1 卷 2~4 號	NHK 教育部
音聲學會會報	第 89 號	日本音聲學會
科學彙報	第 3 卷 1~5 期	中華科學協進會
考古學雜誌	第 41 卷 1, 2 號	日本考古學會
國語學	第 22, 23 輯	國語學會
國語國文	第 24 卷 7~12 號, 第 25 卷 1, 2 號	京大國文學會
國際ライブラリアン	Vol. I No.1, 2	國際資料協會
宗教研究	第 144~146 號	日本宗教學會
人類學雜誌	第 64 卷 2 號	日本人類學會
朝鮮學報	第 8 輯	朝鮮學會
東方學	第 11 輯	東方學會
東方學論集	第 3	東方學會
東洋學報	第 38 卷 2, 3 號	東洋學術協會
東洋文化研究所紀要	第 7 册	東大東洋文化研究所
日本民俗學	第 3 卷 1~3 號	日本民俗學會
文學研究	第 52, 53 輯	吉町義雄氏
フェリス論叢	II	フェリス女學院短大學術研究會
三重縣立大研究年報	第 1 部人文科學 第 2 卷 1 號	三重縣立大
山口大學文學會誌	第 6 卷 2 號	山口大文學會